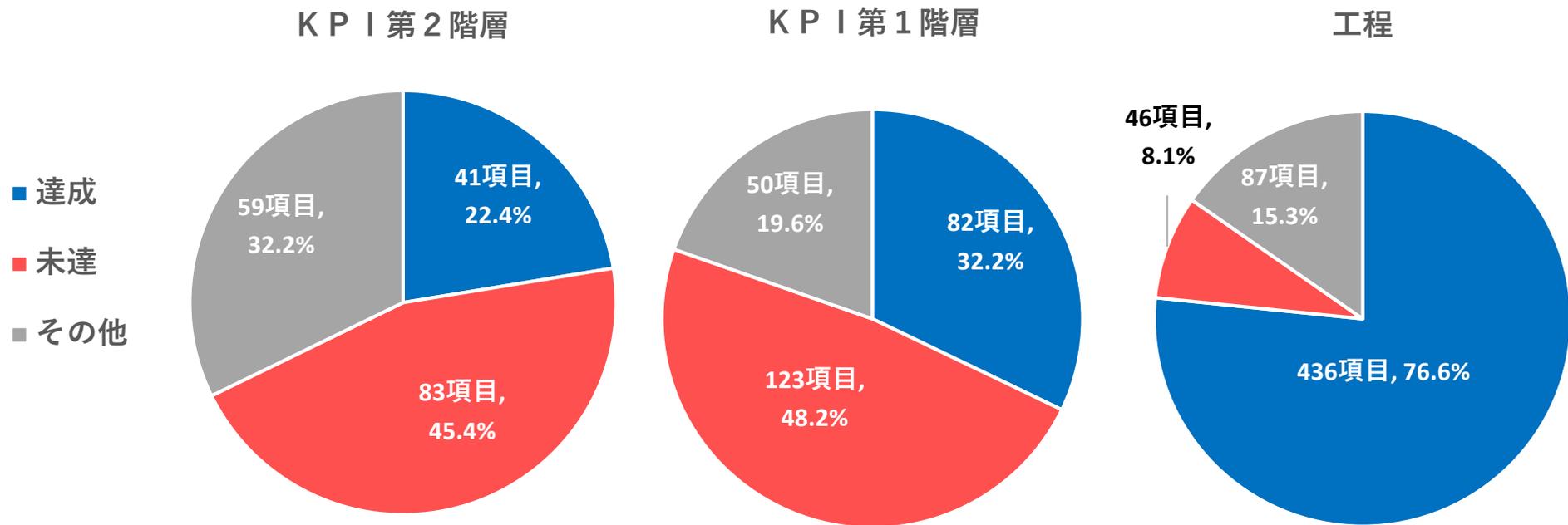


参考図表

(今後の重点課題について)

参考図表（「新経済・財政再生計画改革工程表2021評価案」より作成）



※「達成」は達成期限までに目標条件を満たしたものを指す。

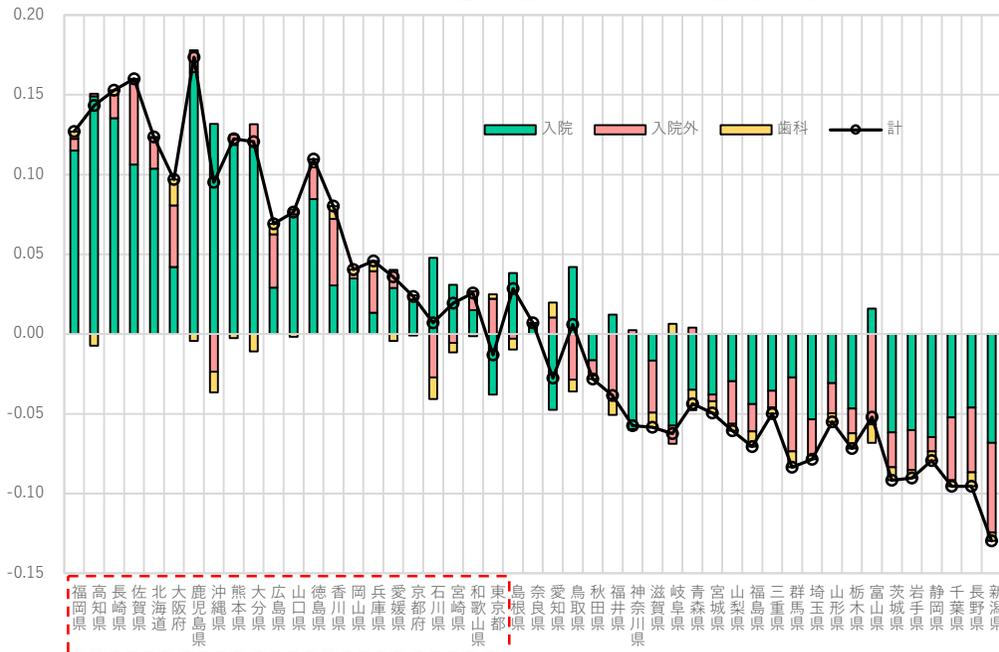
※「未達」には、達成期限までに目標条件を満たせなかったものの他、達成期限に向けて進捗中のものも含まれる。

※「その他」は、測定がまだできないものや数値目標がなく現在検討中であるもの等を指す。

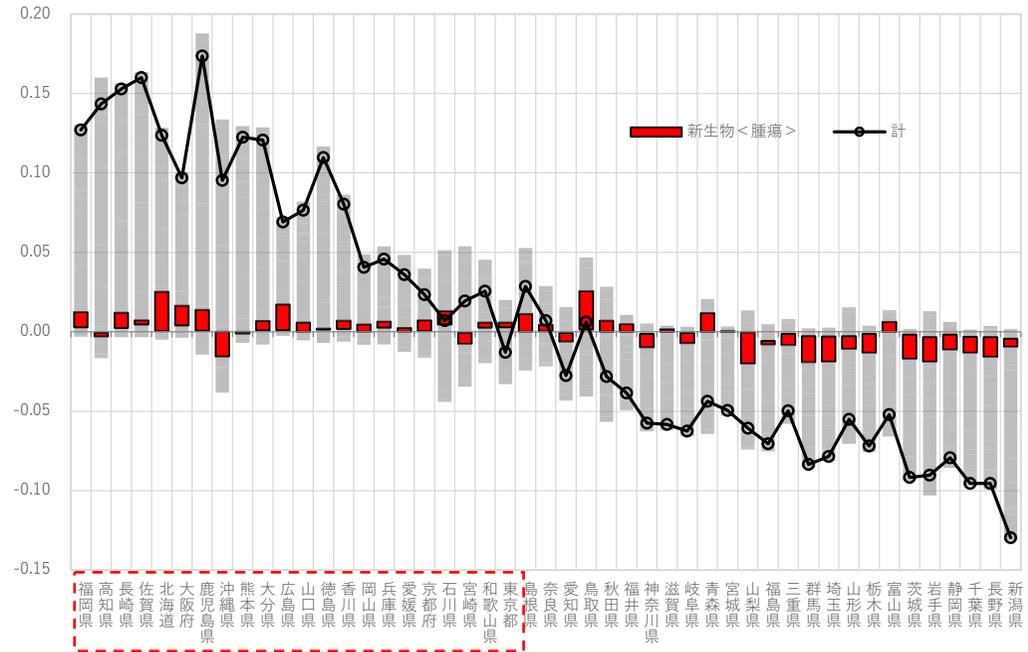
※工程表全体にわたり項目数について、一律の基準のもとで計測するのは困難であることから、集計結果については幅をもって見る必要がある。

一人当たり医療費の地域差について

<一人当たり医療費の地域差指数の診療種別寄与度>



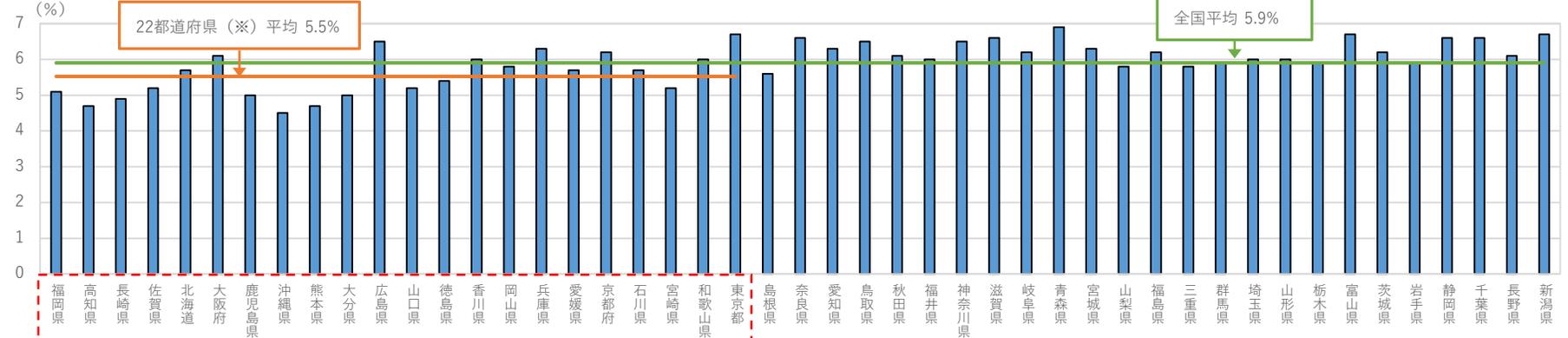
<一人当たり医療費の地域差指数の疾病分類別寄与度>



(備考) 1. 厚生労働省「令和2年度(2020年度)医療費(電算処理分)の地域差分析」より作成。
 なお、地域差指数は、「年齢調整後の一人当たり医療費/全国平均の一人当たり医療費」。
 2. 各都道府県の地域差指数の全国平均からの乖離(地域差指数-1)を診療種別の寄与度に分解したもの。
 3. グラフ中赤点線枠の22都道府県は、基準となる2014年度に年齢調整後一人当たり医療費が全国平均より高い都道府県。

(備考) 1. 左図(備考)1.及び3.と同様。
 2. 各都道府県の地域差指数の全国平均からの乖離(地域差指数-1)を疾病分類別の寄与度に分解したもの。
 3. グレー着色部分に含まれる分類項目は、「感染症及び寄生虫症」、「血液及び造血器の疾患並び免疫機構の障害」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「精神及び行動の障害」、「神経系の疾患」、「眼及び付属器の疾患」、「耳及び乳様突起の疾患」、「循環器系の疾患」、「呼吸器系の疾患」、「消化器系の疾患」、「皮膚及び皮下組織の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「腎尿路生殖器系の疾患」、「妊娠、分娩及び産後」、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、「特殊目的用コード」。

<がんが各都道府県の医療費全体に占める割合(入院外)>

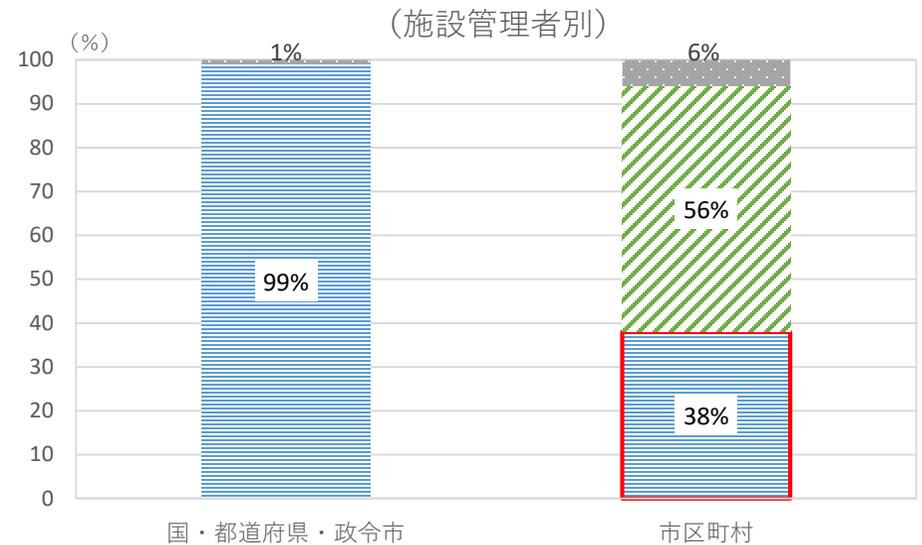
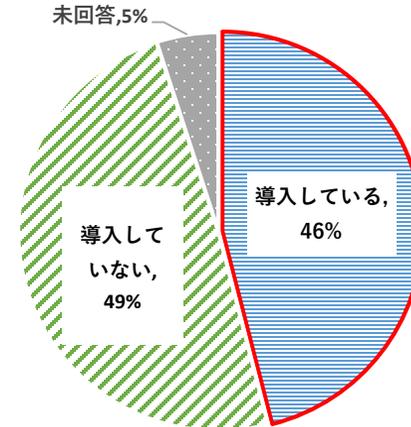
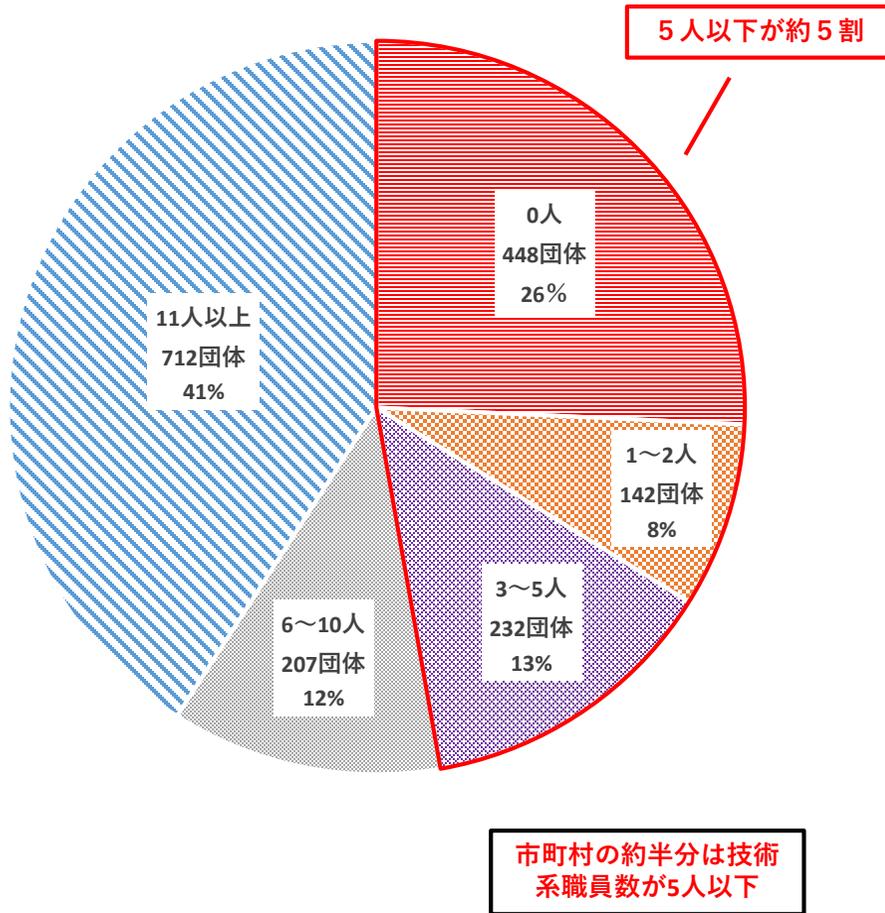


(備考) 1. 厚生労働省「令和2年度(2020年度)医療費(電算処理分)の地域差分析」より作成。
 2. グラフ中赤点線枠の22都道府県(※)は、基準となる2014年度に年齢調整後一人当たり医療費が全国平均より高い都道府県。

インフラメンテナンスについて

＜市町村における技術系職員数＞

＜インフラの点検・診断などの業務において、ロボットやセンサー等の新技術等を導入している施設管理者の割合＞

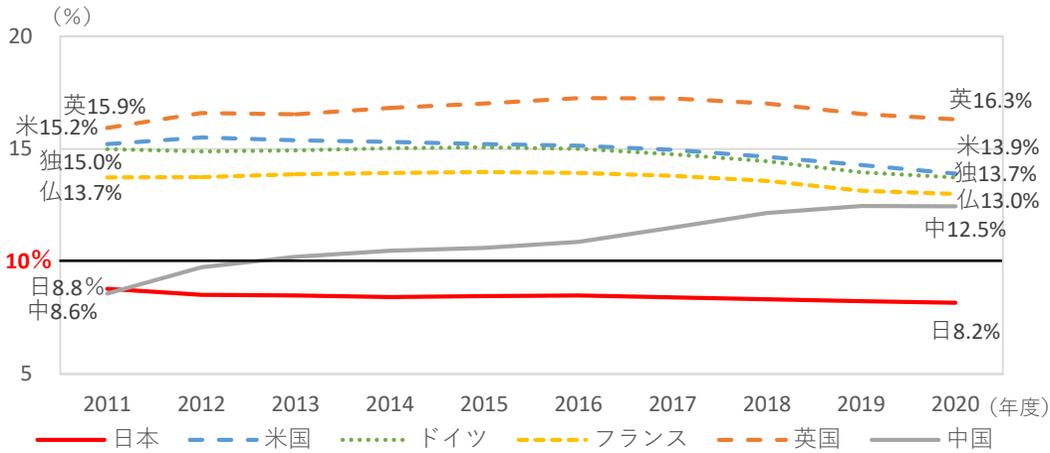


(備考) 1. 国土交通省資料より抜粋。
2. 2019年度の値。技術系職員は土木技師、建築技師として定義。

(備考) 1. 国土交通省資料より抜粋。
2. 国土交通省所管11分野（道路、河川、ダム、砂防、海岸、下水道、港湾、空港、航路標識、公園、公営住宅）を対象とした調査実績（H28.4.1～R3.3.31）。
3. 調査団体数は、2,089団体。

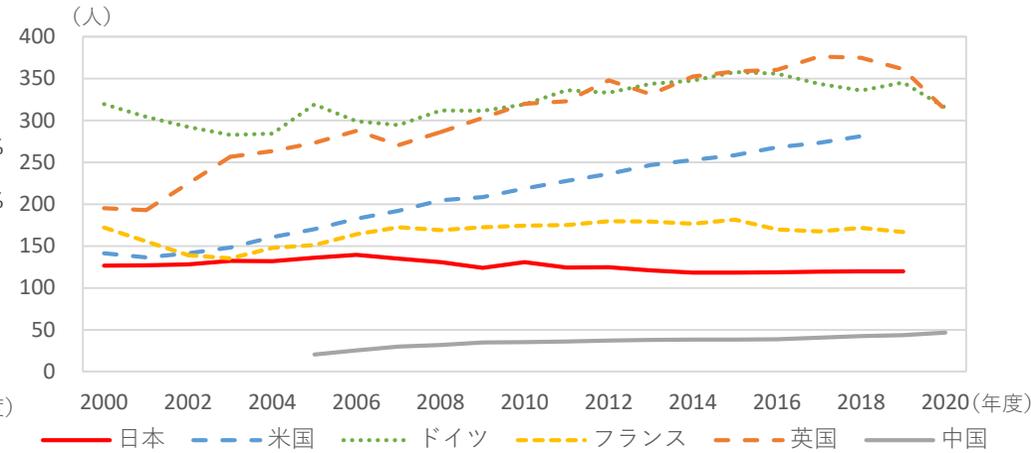
国際的な研究開発の競争力について

<各国の論文数に占めるトップ10%補正論文の割合>



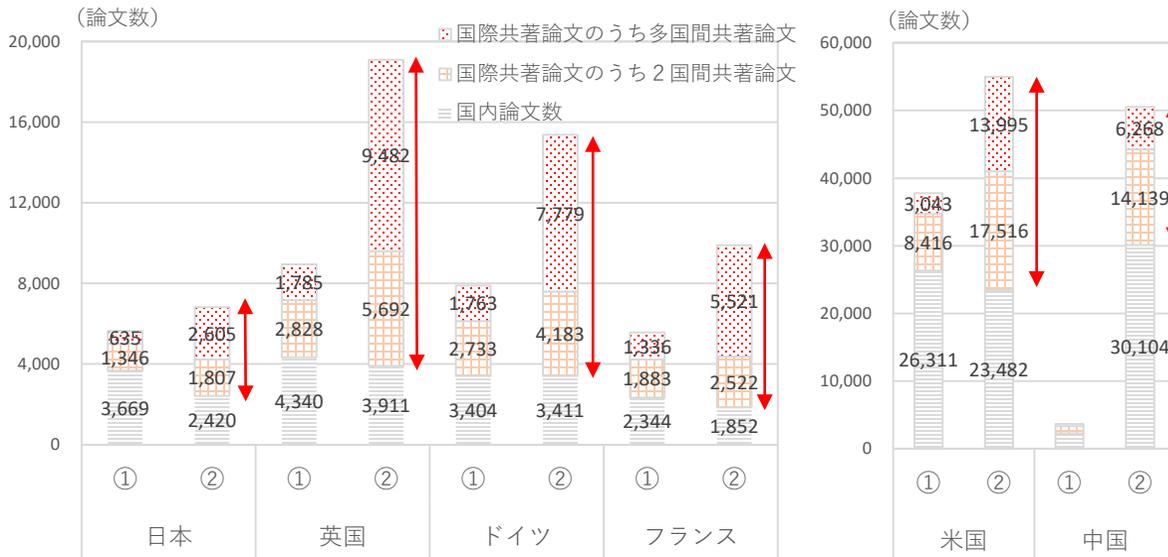
(備考) 1. 文部科学省、科学技術・学術政策研究所「科学技術指標」より作成。
2. トップ10%補正論文数とは、トップ10%論文数の抽出後、実数で論文数の1/10となるように補正を加えた論文数を指す。

<人口100万人当たりの博士号取得者数>



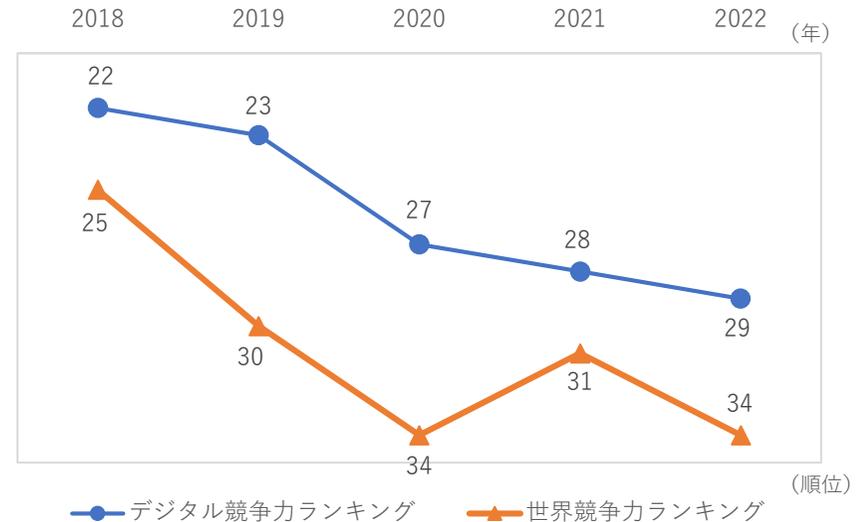
(備考) 文部科学省、科学技術・学術政策研究所「科学技術指標」より作成。

<トップ10%補正論文における国内論文数と国際共著論文数>



(備考) 1. 文部科学省、科学技術・学術政策研究所「科学研究のベンチマーキング2021」より作成。
2. ①は2002-2004年、②は2017-2019年の累計数。

<競争力ランキング>



(備考) 1. IMD「World Digital Competitiveness Ranking 2022」より作成。
2. 数値は63か国中の順位。